

補 證

哥枕秋什補箋

海浦
湊



○
四

影印物五通より大群り水鏡と云ふ

又海といふは浦渚深きのかいれを指す

三才圖會

海の歌うとたの天の海も
海も海も海も海も海も海も

界へふちりもけりといふ
垣ちとも金乃欲

萬世心
 師抄
 方
 集
 一
 編
 子
 江

つひつとへきゆき

五言古詩



○海

龍林抄云海といふ龍り水海なること



又海といふ龍り浦溪深るのわつれを後ても
と龍りかすふ乃後るに同く同抄海路といふ
海乃路なりと龍り大沖なりと龍り道なり
ゆへに又海とも龍りとも塩ちとも八重乃後
ちとも心おの風抄でかとも後へ海とは
海乃上とてふこと文字に必ずありとも
ついでに空ゆえの月（海上の月なりと云ふ）海なること
と龍り海にりる龍り海に立たりと云ふ
ついでに上とてふこと文字のわつれと云ふ
こととてふ海乃なること浦溪破なりといふ



ても海のやうな後下——いゝわまの位置
浦人け志しきとも後アときと諸流といふ
新ハ破枕楫枕波枕浪のうねひなき後うみ
海魚とよそく故江の愛もより　りるる
つこの巻にのれうなりとてろ　らる海乃
もあまたなる玉海のうね海神
飛必浪せく海海のうみ
細かなさ々多れち海を海ありを海抄を海
こ一の海あり海　已上八重　ゆる谷のねー　甚海
石川乃前あすむる海こ一此へう海は海　うー
ま海　う紫の海らひの海浦の入海　糸の海　大海
うあふさうさう　已上五本　海のおきて　な　この海

海の中源氏
 子君の座
 越の海乃とちれ西
 海の都國

くらの文雅海抄集
 いさよふた乃海新六
 海と川とのわ

ゆい万
 くら海の岸なる木
 枕の下海古今
 海流る泉信房

けろとむね一茶
 海ものう
 わら々万
 よそと還

も乃海なる海こしは海
 れくの海
 四乃海

いのこの海生田
 ・ふり萬葉
 砂日池口杜日川日里日浦日并乳海

をくいてま面の海乃うひも中
 沉えたとどろふちうけん

いで乃海伊勢
 ・浪彦
 ・喜ぬ・ふりぬ
 堂新今
 入の
 乃月・お衆後子

雷我小
 露後依
 貝羽和
 定おくり
 う後合
 え論建一
 玉万
 万わかひ
 建建一
 と後合

あ
 演萩後
 ころあ
 りに菜
 入にの菜
 とも由果松金

足らの衣霜秋小
 りは火
 いさり火
 雲古
 のてふ万
 パー乃後本

四

卷六
綱

新六
砥乃

漢江張合

卷之四

浮舟の海は病者あまけうけなむひるをいふる
 上金に

いせ乃ぬれ鑑のけ縄打ててくるとのゝやせいのん

佐助のまのねをたねうゝてふゝあに人をわうし日 芥

神風や佐賀の漢族の如く
さすんわき漢(一)

いふ事もわきまを以てなり

奇

...

手紙を私に宛てた。九州の泉谷源のふりや

浮屠

...

月

卷之四

三

此方

三

方子之君

此の海に我々を渡さるる中にかゝる友は

ちねの海 千沼 弥坂茅奴 癸辛二
ちね 万 ちね 万 ちね
夜 万 日
曇 日
ふ 名
小松 万 渡の

万七
婦人良といふところの海はわたり、彼はまうの

紀伊 千尋
ちいなる海
うけふ
淡路

素
● かく紀日の重なりく縄打立ててみぬの海よかすこふい

千鳥 祇のまろを

我々をいふよりよき乃海はわき治風をいふけ

かしの海
ま本
太海
浦
沖

母後
 子謝
 長
 長
 建仁
 名
 名

与謝 与謝
 よさの海 与謝
 霞 張若
 雲 建仁
 納涼 名
 席巾 名
 月 名
 雪 名

●秋ね 集ちり 凡ふ 毎毎 志志 各各

松浦の松立
ゆい
涙の夜
雲のうさ
あそ

いさ火 健仁
あま 馬
人 名
核泊
とま
ひ
け
り

いふ浦 後合
 内外 名の溪 日
 う子浦 月
 とろろ立 千
 浦 り

破日
溪日
漆日

破れ松を
 ちやうかくそやなほくさの海乃天のちうとむらうをば
 老藤雲

雞皮
 浦・鵜・沖・江・浮・砂・溪・漆・浚・道

里日郊日宮日寺日

●やゝえのひをみてぢうるや那岐の海とあひくゞりて

那古
乃海 名見二幸
万
依り
我七
霞
月
名
氷
霞
万
序

名
とろろ糸
志所地
名
ろろき
巻
万
張の浦
日
漢
嘉

●あゝこの海に底のよりあひれ入りぬわゝふけけをう浪はな

繩乃
子ハの海
浦・
為・
孖・
珍・
日
浮・
日
溪・
日
沖・
日
海・
日
里・
日

校乃海

浦
あり
河
日
港

不
の
一

わくのあし

わき板

杉の編之

郭

「さうして、眞の海は、
千のこゝろにあり」

出雲
食

杉の島

月・雲 ちより

隱故

木さの海

我社は小のちりやちの海乃ちさは同年です

之

五

乃主

不_レ事_ニ成_ル也
主

肥前
松浦

まろ

海
名を以て震

卷之五

名書

今も從まつゝの海と見候をいふやどばさる香舟路なり

けい

萬三

酒あり

その

老
越

水差の七ノ瀬のなまむきで、のびる、高、い、三ノ

子我

千載
万世

ひるまゝの海に浪をまかせようか
 悠長哉

後可 子慧天

この海

紫のこころ海よかゝるもあつたまゐりしうまのせん
百十二

阿古

わとの海

河内名をまきし中との海に船け乃改をむもろてな

也

里
力
冲
日
雞
日

卷之四

相模 芦 明の海 今よりいふにわの海は海軍の海軍をて

有磯 ありて海 千鳥 忘貝 ありて貝

長門 阿胡 ありて海 浦 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

ありて海 ありて海 ありて海 ありて海

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎 磯崎

卷之四

五

事あるに上よりたまなるれを以て火

と承安四年に於てより興仁江浦とも云ふなり

臨江府志

月
以
本
・
旗

月
以
本
・
旗

平流前
 二 鹿
 二 馬
 二 己
 二 人
 二 爲
 二 有

平流前
 二 鹿
 二 馬
 二 己
 二 人
 二 爲
 二 有

伊勢 鳴呼
をこの浦 一章 紀伊

万 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん
雄鳥 雄鳥
をこの浦 入る浦をあらうまのれすといはるらん

まねおはれまねおはれ 祇方 祇方

まね 沖はるをあらうまのれすといはるらん
加賀 小塩

をこの浦

良玉 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

平布 どの浦 花 鴨

万九 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

紀伊 小江 どの浦

まねおはれまねおはれ 祇方 祇方

ワレ浦 建 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

萩 どの浦は船のつらんをあらうまのれすといはるらん

伊勢 鳴呼 どの浦 入る浦をあらうまのれすといはるらん

かざろやの浦
かざろやの浦

ちぢり
ちぢり

沖割
沖割

万三
 形見
 得
 万
 今
 万
 万

内名
 一^名月^文
 千鳥^秋
 万^万病
 名^名百員
 万^万人每

名
りぬき
聲
まのつみ
吟
ふ

・神やうにあらうとけはまむみの浦やとあらひり

与徐
ふこの浦
海老浦
淡日
砥日
湊日

秋親

手勢 夜床
其間 多者
直ぐに寝るものと云ふ人ありて、
あはれ

万九
 元一

高師
 萬代
 萬代

とうり浦
 沖のなうとつげら
 八戸
 八戸

神代

卷之七

とく

5

萬
一

112

二

人

三

五

冬
 演
 山
 演
 沖

三河無_二下_一なる宿_二を_一作_二る_一所乃浦_二に_一け_二く_一白浪

たの

月・芳・雪・氷・千鳥・朔日・演松・玉藻

入。蜜。旅人。山火。蜜之。子。子。

野子の産よりあてていかにあけやのえねは香りのけ

すまふなり田子御浦清くぬけのわかれも君とまゐる日とけり

相模
袂

多

有るに在り

多隆 高岡
雨
入の彌
・長子様浦安の老松に孫とて居ん
孩今
老

手記たりの痛
・万五まで神をさるゝと云ふは建後の時付の痛

[illegible]

卷之五

たけは浦
竹
厂

浦人
 三云
 岩
 越の山

將
 あり
 傍
 日
 入
 江

其の補乃を自ら後浪を起して我れんを人のふ
 あり

如方にちとせり

月
乃月乃江浦
萬
浪
日
漢
磅
あり

托幼女婦士師

五六
ふる娘の浦を無りきふの月をみくわそ（月）きりぞん
高砂
たうさこの浦
今
・辰
・月
・月
千鳥
・月
・月
所敷
・月
松
・月
八重垣風

諸有
子砂舟
山
可
客
淚
湊
客

松峽より此寺も高砂乃浦臨み之々秋乃雨之れ

乙亥の痛
 月
 千鳥
 乙亥

肥前 王嶋
トシ多岐はあふ守玉の陣は夜ふけまひつゝもえん

五
三南川のあり
はつちの
里

未効
多比
・人の浦 旗手
素
ついでに朝愛を以て無くて病況定むる人々
紀後

月
多毛如
ふひらの浦
まふ
あはれきつと社をぬるふはらの月をふりて
糸巻屋

伊勢 狹師
 其の北浦
 朝多々次神の浦をいへるなる所のなりけり
 伊勢

同
格於主
廣堂廉子馬
而元
子
負
細
引
之
也

唐衣衾沐浴の心も眞むかまひをり年乃経わん

出羽 油 釜の浦 多志まで残り 鹿 ありぬ 河内

月 棲衣 千鳥 雪 松 玉藻 ありぬ

忘買 船より波 りゆむ 玉 建 船より波

さく漆 ありぬ ありぬ ありぬ

紀伊 曾志比 万二 ありぬ ありぬ ありぬ

津守 ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

ありぬ ありぬ ありぬ ありぬ

[illegible]

[illegible][illegible]

千鳥
万
おのろ
万
あふま

萬七
● 山のみゝる海乃ほまゝ地は神のこたねをさかん

老母 奈依可
ふころの痛
常陸あけ
千鳥
玉藻
海
あき

あつちのあつちよはてなぬきをいれようか

あつとぬの浦 月 巳るあ

[illegible]

乃浦
 海
 入江
 溪
 漆

万六
・ 諸君の御覧する所は、此の如く、年々、

冊後
 泪
 千
 之
 浦
 有
 わ
 ゑ
 貝
 玉
 藻
 紙
 芳
 子

本
 往々往々のひまより八月や洞のくはくをううん

用防鳴門
あまの浦
大野あまの浦と記さるる下の漢も如く商人

長門
長門

1

あつちの浦
しやう棚ふたれらうをきかろあはゆがく

紀伊 名高
やうの浦
万
紀の海乃と後ろ
新井

・みち 衆中なるの浦れ浪のと秋はなるといふ歌と

夏實
まゝの浦
我と君をばまゝいふと
殿の下へおつたところ
佐和

門カド鳴ナリ門カド
 なるの浦
 塾シユあひのくさけり
 水ミヅ鷗ウ千鳥 貝

あまのうき
あまのうき
あまのうき
拾
あまのうき

久里の門 沖 淡路

風をきく乃ちあはれとありきぬわの身たりきり

あまういの浦
松
石
あり

三
信をたづねて物乞ふより
皮屋
幕

かゝのやみ浦
おの止み浦にほくられや
垣よふあきて衣をけり

地神村

紀伊 熊野 八木の浦 女帝花 寺 音 八木の浦

後山 貝珍 松 玉原 破建 山 山

宮 湯 日

万 八木の浦 後山 寺 音 八木の浦

三河 大知 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

万 八木の浦 寺 音 八木の浦

原 真野 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

海 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦 寺 音 八木の浦

あけくた二見の浦より浪の神乃とねきて沖は人
ふちえの浦 万 白砂のー ばれー 指うーあつ

はまざり 後 丁 月 入海 乃ー 松 乃ー 乃ー

こく 沖と 乃 入海 乃ー 乃ー

あけくた二見の浦より浪の神乃とねきて沖は人
ふちえの浦 万 白砂のー ばれー 指うーあつ

あけくた二見の浦より浪の神乃とねきて沖は人
ふちえの浦 万 白砂のー ばれー 指うーあつ

あけくた二見の浦より浪の神乃とねきて沖は人
ふちえの浦 万 白砂のー ばれー 指うーあつ

相模

こいせの浦 大城のーと後り

越後

こいせの浦 大城のーと後り

伊予

こいせの浦 大城のーと後り

古瀬

こいせの浦 大城のーと後り

あまの浦 淡香 佐吉の 孝 霞 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あまの浦 孝 夢 孝 花 孝 夢 孝

あふせの浦 七夕のー

・それらにわきの浦より浪乃よりといふれとさうりけり 中勢

あやの浦 なま ままらふれひるよらなりあやの浦の浪乃や

あふせの浦 なま 海乃・浪乃・浪乃

・かくてのあふせの浦は浪乃よりいふれなり 浪乃

あふせの浦 なま わき浦よりあふせの浦よりいふれなり 浪乃

あふせの浦 なま はなはたの浦は浪乃よりいふれなり 浪乃

あふせの浦 なま よとの海乃ー 月 なる貝

・あふせの浦は浪乃よりいふれなり 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃のーと浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

あふせの浦 なま 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃 浪乃

卷三

・とあり秋はの浦よさなりておろふも漕つそゆ
飽 下七
わとの浦 ・細川より舟をみんばは浦の邊に立候と云はれを

わつらは浦
浮き
つ
月

名考
 ・物まゝに法ねの端とてたゆまに法ねもろに要んをたて
 網
 あまの浦
 子考
 いさかろー
 ちろり
 海士しぬ
 吟
 わま
 仲西

萬焼塩
吟
あはれうゑ

浪風も静なる世のまにゆいて何となく入る月と云ふ

まふ
・夏と秋とさういふの浦はまうおひさに入じてあふあふと浪
侘太乃
さういふ浦
万
沖の波をかきまきまき——

万々二
 ころろ痛
 沖の海へかゝるききりー
 ・
 ころろ痛きころろ浪あひなれぬあはれなむいそ

九日痛 難勝三子 記な六指
 九日痛 難勝三子 記な六指
 九日痛 難勝三子 記な六指

寫象
笑曰

素
 冬の物并々と獲て正月清々浦乃ちよきうり
 岸
 豊後府浦の物とてあつた
 七南
 有象
 衣笠圖

岸
まじり浦
本錦崎
ま
奥は国石浦の堂に枳方てふ松のさうね
千島
新巻四巻

富集
立にふ浦風いふきうんらよりむいふちゆつた乃浦元約
夕日
ゆふの浦
下土の
瀬
いふちゆつた乃浦
日
ゆふの浦
瀬

素
 湯等
 浦
 海
 漢

三津
 万
 院やまはるの書風は衣うと移しゆねう人
 龍神

卷之四

[illegible]

三枝
浦
いつてみ すもく 細浦人 病

・りゆや

まふ
いつてみし風を やめしうはれうへより白波 照る

伊勢
みさきの浦 遠き 霞 松原 万 くの海

家集
くの海の浦に うゑたされぬ事もとふようになせ 是浦

記伊 三枝野

同
女市花 漢人 松がね 月 千鳥

多葉
くの海の浦に うゑたされぬ事もとふようになせ 是浦

三名部
まふの浦 浦人 浦をよけて 記の海に まのくに 城まつらん

水信成
万二

後三保
風のまじり 白つー ちりり ア 音

・若 松 三保の浦 一 度系 徳谷 沖 娘 ありあけ

不二根

佐野駿河の三橋は保難でさきふに

月

世に事なりとて其の通風をせしむる神祇と

海
日

[illegible]

子

ふりけりゑのうはは乃うを貝ひのきゑをふりけり

山
名
子
談合

わさのりるみるれはふよひ君のまゝに
 花よとふりうある

海史

御牧
素
御牧
素

市 藩人 王 金 石 氏

老女は髪を洗ひて打寄の巾着の裏をあらは

石
あつて

地
領古
太端

一

かまつけろ

ゆにまきはのほはねとてまゐるそのまゐ

白草 浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

浦 清り

卷之五

● 土
土乃浦 鹿 蜜乃声 ちとりの子 細引

法時
 多まの浦
 水
 系ね
 崎
 日
 城
 日

いさの踊
天つ子
あれ
とてつ
廻る舟

いふ乃浦 病 とかれと

日 康正
この所
中 悲多しののしみ程にまじをまじ
後古今
若菜

● 山崎闇斎
從弟山崎闇斎
多田和之以通人

と波の浦
・度
花堂
・
丁
月
・
糸
・
書

●内衣千
鴨
子鳥
落葉
君
松玉
浦一
り
海
吸
木

浦人万・姓・姓・姓
 天竺雲

● 清江散 ● 垣堂表 ● 芳 ● 堂 ● 省山波 ● 清路路 ● 張

今
之
日
方
日
商
嘉祐
上
日
溪
日
海
日
江
日

丁酉のあま丹に焼けつる風をうみやめうへにまひきぬり

此の書の焼衣は、紙の裏に紙を貼るや、君さへは、
月

[illegible]

住吉
山南
松を
新
高
及
山

增補

いづれ溪 付 千鳥 萬葉 山下風

すすきの小貝 ふ 雷 日 雲

いづれ溪 極テ 梅保 千鳥 日 舟 日 ありぬ ふ 志不焼

あははは 日 湍 日 泊 日 山 日

いづれ溪 泥伊 盤代 夜 ふ 月 日 雲 日 岡 日 毒 日 砂 日 家 日 神

いづれ溪 萬二 海人 石城 志波 新市 将 有同王

いづれ溪 統前 怡土 将 新市

いづれ溪 統前 怡土

藤中

いづれ溪 波多 浦 日

いづれ溪 速見 浦 日

いづれ溪 萬二 浦 日

いづれ溪 星合 浦 日

いづれ溪 常世 浦 日

いづれ溪 遠津 浦 日

いづれ溪 千尋 浦 日

いづれ溪 千草 浦 日

いづれ溪 千草 浦 日

いづれ溪 千草 浦 日

いづれ溪 千草 浦 日

増補

三見

常千畝
ちの溪
まふ
出た方ろろの溪風さる江漢より北は中絶する

薩摩
● 未を泥らさるの浪より乃々く秋の聲と云ふくられ去
千尋
ちいられ浪
うけ縄 ● 蟬

万代をわすれぬのたまふもちひられ候乃ほさこちりり
 鳴呼
 をみの涙
 ろろろ
 まあ
 浦
 ちりり

集
 〇をこの涙目彩あひきしる塩井月くもをくま風そく
 陸奥 不忘
 〇いそぐの涙 年ふれいも我をそくすの涙とていづる
 集
 〇いそぐの涙 年ふれいも我をそくすの涙とていづる

万九
 形見
 うみ乃涙
 紀釋 風英
 かきすの涙
 万九
 ●多さのなきむやそをわすていふやかたに涙よあひん
 ●うみ乃の涙は血涙といふに似たりと云ふ可なり

● うしろの涙
杏人
万九
あつたひまをこころまかに涙を流してゐる

尾浪
喚渡

萬代

上にお尋ね。海の方よりよむれ都てのときき浪と万代の声
よまゝ乃涙 海(うみ) 嘉(よし)

多勢
 余凌
 万古
 立上人

[illegible]

古跡地
 沖江原より丸濱の海松乃久重を君成跡にりて

同
 高
 大はのそくの浦乃ちろをさくはねて家
 月
 松

・まをえれいふ世もけり下へる後の松はけり落れけり
たては皇

日 紀伊 手細 いの海をうらなかくのせけりいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

・たの海 紀伊 手細 ちかきあかりをききいふと書にゆて
たては皇

古
・
浦
あり
渚

● 君が代ハ詠りわたり世のほさこの歌ハよみはるきも

● 江戸の浦より其の世侯より治るゆへにきき悉く世風

紀号 名卓
かくさの源
子月 ちどり 名 貝 名
さくら さくら

松月新浦談会

^{抄本}
 此れをよむことの誤りより守るべきことをきく所なりけり
 読人不知

日
那智
あらの浜
ふ
うり

まゝ
・ふちからい流らるるに浦と海とのそへてはけし
後

日
鳴罪
中
名

ふくみ溪
あまの海はるかにふかきとてあまの海の
うきは

小却 涙
 ながる涙
 名号
 いふあまはれをいふは涙の涙なりぬけそ

後有度

有度
うとく漢
處
ちり
綱
・
・
田

沖ハツ
天乃羽衣

水参
●と後のあまはね衣ひききくうまん神やふのこころ
内外
名号

母内
うしろの痰
・よき痰からいふ痰は滑りておどろく天の橋立

●うづ候
上登

●かたはるの森とていふ所なり候をへりし人
出来

[illegible]

おまの溪
何月
らり
らり
細
名系

● 浦 瀨

●君とていやはの候は、
 御前
 かき入乃候
 佐々木
 佐吉の
 名
 井屋
 井屋やーやとてけり
 歌

久
 う
 久
 松
 里
 久
 栄
 日
 松
 談合

增補

三十二

伊予 飽等 至
 わづれ浪 紀の海ありけ浪の志見我の志見うへに
 荒津
 わづれ浪 浪枕 海濱 夢日 旅
 至
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 有祇
 わづれ浪 海濱 浦日 浪
 後金
 いそとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 朝
 わづれ浪 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 金救
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 至
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 雪白
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 但ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと

後金 雪高
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 三津
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 後金
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 伊予 真熊野
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 同
 浦日 宮日 湯日 浪中 浦日 浪中 浦日 浪中
 白野
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 伊予 白良
 ちるまの袖わづれとちるまの袖わづれとちるまの袖わづれと
 鳥貝 松 沖 白貝

神は漆のさく 漆の浦 漆のじふふ

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

伊保 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦 漆の浦

魚油

とての漆

多くをいそいで塗り

まっとうで

・塗

・月

・氷

・あ

・結

・漆

・漆

漆師を塗り

海

・漆

・漆

・漆

・雁

・文

・鶴

・松

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

伊予

・漆

・漆

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

・漆

・漆

・漆

・海

・河

・川

・原

曾南火の

・漆

二百七十一

二百七十一

万七

・後河 奥津

・おき 深 わま 日 松 日 旗泊 川 あり

・ま

・紀伊 黒牛

・ち 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・五

・肥前 松浦

・ま 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・お

・の 日 旗 万 浦 あり 海 日

其外 五浦 海 浦 あり

・万五

・和泉 次飯

・ふ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・建保

・い 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・伊勢 二見

・ふ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・三

・二 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・同

・ふ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・持

・あ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・あ

・播磨 明石

・あ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・あ

・あ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・同

・あ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

・あ

・あ 深 なま 日 旗 万 浦 あり 海 日

増補 次郎 保蔵

(三) 三浦

卷之三

市連黑八

2

三

○ 鴻

松

根

ハナツクレ

ハナツク

来と多

ら

百

二

大

う

中

わ

し

い

れ

風

鴻

を

子

の

つ

ま

鴻

の

わ

た

新

の

万

の

け

の

海

の

口

の

海

の

の

の

口

の

海

の

の

の

口

の

海

の

の

の

い

夜

月

ち

若

若

貝

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

・ 漢

其の事と海と求下

千

伊良

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

・ 伊

増補

二

妻屋 龍
・いづれの水 石城 わたし今もさしはねぬ波の底までんあふ

・いづれの水 多分 涙 なみだ あり

後前 龍
・いよの海にまればいれられやわさめこれいづれの水とて

・いづれの水 六病 下酒の夕ふかひとされまじきあまをぬふのゆゑ

紀伊 妹 珠 月 おち ちどり おち あらふ おち うた おち り おち 火

けふ 日 あつたの浦 夜合 草花

・藤 おち うみ沖漕ぐじやうほううみ乃浦よりうきまふ

・いさう おち 水 おち さら おち 水 おち さら おち 水 おち さら

・あつた おち 家 おち いか おち 家 おち いか おち 家 おち いか

・いづれの水 おち 雲 おち 雲 おち 雲 おち 雲 おち 雲

・月 おち ちどり おち 鶴 おち あ おち 紙

伊勢 錦
・舟 おち 舟 おち 舟 おち 舟 おち 舟 おち 舟

・いさ おち の水 おち 雲 おち 雲

・波 おち 波 おち 波 おち 波 おち 波 おち 波

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

・玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉 おち 玉

卷之四

丁
 糸
 月
 永
 千
 鳥
 河
 女
 松
 女
 ま
 の

夜半
砂子
吹
破建
のいぬ

海至るをくみぬれぬと我をくみぬれと久き

今更之字も朽々下と此の字乃拙者と稱と 徳家

あつちやうとかけとまゐにうねを頼とてうろ

255
 12月海と北風と

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and a small tear near the top left corner. A dark binding edge is visible on the right side.

This image shows a blank, aged, light brown page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a textured, slightly mottled appearance with some minor discoloration and a small tear near the top center. A vertical crease or fold line is visible on the right side of the page.

288

かまへをいふやうにふんたふれどもうけぬと

かろこ 月 千鳥 氷 病 高砂 波

潘入江

かきつゝのさへ川をぬり水のうへにわきあふたぐれ
恒産書

●まゝの風ぬき、あつたをみつゝる君と云ふなり

(署名)

万
柳
三
波

まゑにゆかりの旗とちみれをけとせり
中々合

冬風梢より吹ぬはつきの夜さかき月丸明

鹿
 ちり
 松
 松の
 松
 松

月・舟人・驛
 萬
 客三折
 後
 嘉

松東より
わななな
うきうき

然の意

卷之九

肥後 多岐丸
さくらねね 堂

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
隆興 多胡浦 岸

たこのさね ありていふと隆興のふたつ浦のねねと
備中 高 宮 あり

たけはのわらわねとていふとわらわねとていふとわらわねと
記 鷹 高 石

我々あんな後いふのうへにわらわねとていふとわらわねと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

はるあれとわらわいふたつねねよりいづれをわかれぬと
同 袖 海 入 沖 あり 鹿

持浦

・霞 月・雪 千鳥 吾・沖波 松

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

千鳥 松 不二 答 わり 日

建百

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

千鳥 松 不二 答 わり 日

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

千鳥 松 不二 答 わり 日

水に小浦のうらまきつり細つりうらまきつり

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

・あまき・ゆきやん・はの雪今も雪と雪のうらま

持浦

持浦

・ 庭まさるいまのやうくして瀟々れはわづのどより大和路を^人往^九

植 植
ほきのつ 友・卯花・五月夜・芳 移・五月

海東 抄衣 布きん ころり すりかほ

わろ 抄衣 美人 抄衣 松抄衣

風 抄衣 寧ろ 抄衣 里 あり

千言 抄衣 わろ 抄衣 といをのころりやわろと松乃抄衣

松 抄衣 一や雄抄衣 松 下松葉 抄衣 月・芳・抄衣

抄衣 千馬 松 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

松 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣 抄衣

○

增補

卷三十一

[illegible]

古今 わき小町
・井のわきを屋よりもあつたて敷き入れけり
・えり 津和 藤 みづはの 海 い ま り

肥後 水 後 万三
・うこのせよ佐神さしてうの神乃とありにこそをせん
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

肥後 水 後 万三
・きりてはくさうさあやうと神といふうこれ乃水 長田玉
・えり 藤 みづはの 海 い ま り

常陸 水 後 万三
・みづはの 海 い ま り た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

常陸 水 後 万三
・う 後 水 後 万三 千鳥 万 わき た 乃 浦 後 合

事勢 火焼

尾根 毛登目

相模 百津

志保 百

伊勢 酢我

紀伊 同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

名考

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

本末

手抄
火燭
の
名考
二八



